

脱ネオニコ地図 生産者 #2

現状と問題

生産現場において

- ・ 稲作については、有機栽培の技術が確立されつつあるので、ネオニコを使用しないことは可能。
- ・ 野菜に関しては、IPM 防除を意識した取組みが現実的。ただ、有機栽培でほとんどの野菜ができることを考えると、生産者がネオニコだけでなく化学合成農薬を使用しない勇気が必要。
→ 意識の革命。
- ・ 一番問題なのが果樹で、現状を見るとネオニコを使用しないことが考えられない生産現場がある。それは野菜とは違い、永年作物であり、失敗すると経済的、精神的にも甚大な被害を受けることなどの理由があり、なかなか踏み込めない現場がある。
- ・ また、生産者間の情報の共有が少ないので、交流の場等もつくれると良い。消費者との間にはいる生協・流通業者がそのような機会を作る。消費者へ現場の現状も伝えていく。
- ・ 果樹に関しては課題が本当に多いが、こちらまずは一步踏み出す勇気が大切。
- ・ いずれも生産現場の目指すところは有機栽培であり、作物の持つ生命力を信じて挑戦してみる。

新規養蜂家さんの話

- ・ 都会での養蜂から田舎への養蜂へと引っ越しをしたが、農薬の散布の少ない都会の方が蜂にも良い環境で、蜜もよくとれる。
- ・ ネオニコは間違いなく蜂に効いている。
- ・ 小学校などでネオニコの話もしている。子供から親に伝わり問題視されていく事も大切。又、社会的な大きな力・権力がネオニコ不使用への動きを邪魔している。
- ・ 草の根的な活動が大切。

生協・メーカー

- ・ ネオニコを使用していない商品の差別化・拡販・市場を作る。
- ・ 綺麗な作物が不自然であること、ネオニコ社会の危険性の啓蒙。
- ・ 生産者間の情報交流の場を作る。消費者との交流の場も大切。
- ・ ネオニコフリーの科学的研究・技術の展開も各種機関と連携を取り学習していく。